

第 10 回アジア遠隔医療シンポジウム
～The 10th Asia Telemedicine Symposium～

平成 28 年 12 月 2 日、3 日の 2 日間、ベトナム社会主義共和国ハノイ市において第 10 回アジア遠隔医療シンポジウムが開催されました。同シンポジウムは国立大学附属病院長会議常置委員会の国際化担当である九州大学のアジア遠隔医療開発でセンターが事務局に当たっています。今回はアジアを中心に約 20 か国から約 200 人が参加し、遠隔からも日本、韓国、中国、台湾、インド、メキシコなどが参加しました。演題数は約 50 で遠隔からの発表も数多くありました。当院からは秋山稔国際医療センター部長と総合臨床教育センターの讃岐勝氏の 2 名が出席しました。秋山部長はチョーライ病院と筑波大学附属病院との遠隔医療ファレンスについて実際の技術協力と遠隔カンファレンスの併用の利点という視点から発表し、讃岐氏は遠隔医療の最近の動向セッション 2 のコメンテーターとして参加しました。また、大分大学病院、ベトナムのハノイ市内ベトドク病院、同市内 108 病院からの内視鏡治療のライブデモンストレーションは臨場感溢れるプログラムでした。全体的には実際の遠隔医療の実際、最新技術の遠隔医療、過疎地域に対する遠隔医療、救急への応用など臨床的なテーマと遠隔医療のシステム・機材などハード面でのテーマが話し合われました。遠隔医療は簡単な技術から専門的な精度の高い技術まで目的により使い分けることにより、高度医療、過疎地の医療など適応範囲が広く、実際の診療・技術協力、カンファレンスなどにおいて頻繁に使用される重要な技術になっていくことが示唆されました。



開会のあいさつをする Tien ベトナム保健省副大臣



シンポジウムで発表をする秋山国際医療センター部長



修了証書授与の準備をする学会長の Tran Bing Giang
ベトドク病院副院長と清水周次九州大学国際医療部教授